

安全性速報（ブルーレター）の配布前後におけるダビガトランの 処方実態調査

【背景と目的】

脳血管疾患は日本人の主要な死因の一つである。脳血管疾患のうち死亡率が最も高いのが脳梗塞であり、その原因の 1 つの心原性脳塞栓は心臓にできてはがれた血栓が脳血管に流れ込んで詰まったもので、抗凝固薬を投与して血栓形成を予防する。抗凝固薬の一例として挙げられるのがダビガトランである。ダビガトランは 2011 年 3 月に販売開始され、心房細動患者に対する脳梗塞の発症抑制のための処方が大半となっている薬剤である。しかし、重篤な出血性の副作用や死亡例が数例報告されたことで、注意喚起を促すために 2011 年 8 月 12 日にダビガトランに安全性速報（ブルーレター）が出された。このブルーレターによって添付文書が改訂され、患者の腎機能を確認し慎重に投与する旨などが追加された。そこで本研究では調剤薬局ベースの処方箋データを用いて、高齢者を対象としたダビガトランの処方実態の調査を行った。

【方法】

データは大洋メディカルサプライグループが展開する調剤薬局 14 か所を利用した 60 歳以上の高齢者の処方箋データを使用し、期間は 2011 年 4 月から 2017 年 3 月までの 6 年間とした。対象となった患者数は 1,346,563 人、患者の ID 数は 77,723 であった。

【結果】

本発表では、ダビガトランの 1 日服用量の平均や処方数、処方人数を全体と年代別で示す。また、ダビガトランを服用している患者の併用薬数と NSAID s との併用割合を簡単に示す。

【考察】

本発表で示す。

【参考文献】

James Lopez Bernal, Steven Cummins, Antonio Gasparrini. Interrupted time series regression for the evaluation of public health interventions: a tutorial. International Journal of Epidemiology, 2017, vol.46, No.1, 348-355 など